



Peace !

CODE

Letter

2003.3.25 VOL.3

CODE(海外災害援助市民センター)発行
〒652-0801 神戸市兵庫区中道通2-1-10
TEL : 078-578-7744 FAX : 078-576-3693
e-mail info@code-jp.org URL <http://www.code-jp.org/>
郵便振替 : 00930-0-330579

イラク攻撃反対声明

私たちは、8年前6,433名の尊い命をなくす大地震に見舞われました。それ以来、私たちはやさしくなりました。多様な目で、目配り・気配り・心配りができるようになりました。それは、この8年間の経験の中で、支えあいや助けあいという「救援の文化」を培ってきたからです。

あの日以来、この地から海外における災害に対する救援の行動もすぐに起こせるようになりました。それは何よりも「痛みの共有」ができるからです。私たちが地震災害の経験者であったために、これまでの海外における災害救援は自然災害に対してのものでした。しかし、2001年の「9.11」以来、紛争災害による避難民や被害者をも強く意識するようになりました。あれから、もう1年半が過ぎました。それでも世界中を見ると、テロや紛争は絶えません。「憎悪の連鎖」がその要因になっているようです。私たちの経験と教訓からは、「支えあいの連鎖」は出てきても、「憎悪の連鎖」は出てきません。

さて、「いま」連日のようにイラクに対する武力攻撃の是非についての議論がなされ、マスメディアを埋め尽くしています。ことの発端は、イラクによるクウェート侵略から始まった1991年の湾岸戦争の停戦に伴い、国連安保理決議でイラクに大量破壊兵器の破棄などが課せられたにもかかわらず、イラクがこれを守らなかったことです。イラクが国連査察協力を拒否した1998年以降、査察は中断され、国際平和に脅威を与えてきました。2001年の「9.11」以降、アメリカ政府はイラクを「悪の枢軸」の一つと位置付け、その後「テロ撲

滅のため、先制攻撃が不可欠」と主張し、単独攻撃も辞さない論調です。しかし、もしアメリカ政府が単独でも攻撃を開始するとすれば、「国際協調」は成立しません。いろいろ課題もあるでしょうが、今のところ国家間レベルにおいて平和を維持する約束事の一つはこうした安保理決議です。

他方、私たち市民やNGOにとって安保理決議に代わるものは「支えあいの連鎖」ではないでしょうか？イラクへの攻撃を止めようという「支えあいの連鎖」には、世界中で1,000万人を超える人たちが加わっています。今回、イラク攻撃反対を呼びかけさせて頂くCODEは、阪神・淡路大震災からの経験と教訓を活かし、多様な市民による海外災害救援に取り組む集まりです。

CODEは、いまにも目の前で起こりそうなイラクでの新たな悲劇を、市民とNGOの力で止めることを呼びかけます。あなたと私たちによる「支えあいの連鎖」で、戦争を起こす前に止めようではありませんか。

2003年3月15日

CODE(海外災害援助市民センター)代表 芹田健太郎

あつてはならないことですが、既にイラク攻撃は開始されました。上記声明は、3/15より賛同者を募りご賛同頂いたみなさまのお名前でも「NO WAR ON IRAQ」の文字を当センターのホームページ上で描いております。現在もご賛同頂ける方からのご連絡は絶えませんが、23日現在で1,000人以上のご賛同を頂きました。ありがとうございました。いろいろな人が、「即時攻撃をやめろ！」と行動を起こしています。「いま、私にできることは何か？」一人ひとりに突きつけられている問題です。諦めるわけにはいきません。

中国新疆ウイグル地震救援



2003年2月24日、午前10時3分（日本時間11時3分）中国 新疆ウイグル自治区カシュガル地区巴楚（パチュ）県、伽師（ジアシ）県付近でM6.8の地震が発生しました。これを受けCODEでは、顧問の林同春

さんが会長を務めていた「神戸華僑総会」からの要請もあり、同協会と連携して支援にあたっています。具体的な支援内容として、巴楚県にある全壊した吾斯塘博依（ウスタンボイ）小学校の再建支援です。建設費用として約1,000万円必要となる為、現在募金活動を展開中です。市民参画部会の中核を担う「コープこうべ」では兵庫県内全155店舗で18日から4月30日まで店頭で募金箱を設置してご協力いただいています。ご協力いただける方は、同封いたしました郵便局での振替用紙にてお振り込み下さい。よろしくお願いたします。

【被害状況（3月10日現在）】

- ・死者 268人（主に巴楚県 瓊庫尔恰克村247人）
- ・負傷者 4,000人（うち重傷者2,058人）
- ・倒壊家屋 36,562戸
- ・危険な家屋 51,109戸

巴楚（パチュ）県・・・

巴楚県は天山山脈の南麓、タリム盆地とタクラマカン砂漠の西北の縁。1999年現在4つの町と8つの村を持ち、総人口は24.2万人（うち漢族は1.4万人）で農村人口は19.1万人。温帯大陸性乾燥気候に属する。農業の特産は綿花。土地資源、光熱資源が豊富である。胡楊（西洋ポプラ）の林の一大生長区であり、野生植物も生育している。鉱産資源はの主要なものは石油、天然ガス、岩塩である。（新疆ウイグル自治区HPより抜粋）

アフガニスタン救援プロジェクト

2003年1月30日～2月1日の国際ワークショップ「地震にまけない世界に向けて ～ひと・まち・きずな～」に実行委員会の1団体として参画しました。

30,31日は「持続可能なコミュニティベースの防災」というテーマで、神戸と日本・世界各地の防災活動についての報告、討議が行われ、最終日はアフガニスタンの日で、現地より防災大臣、住宅都市計画省副大臣、女性課題省からそれぞれ報告を受けました。

「国内は改善されつつあるが、過去23年の紛争で人々は働く気力を失っている。」との報告を聞いて、復興はまだ始まったばかり、続けることが大切なのだ強く思いました。暫定政権は「女性の自立と社会進出」を支持していますが、これま

で長い歴史によって根付いている封建的な意識を変えることは容易ではありません。戦争によって未亡人が増え、また読み書きができない女性も多いため、女性にとって仕事を見つけるのはとても困難です。路上で物乞いをしている女性も多いそうです。そのため女性が技術をもつことがとても大切になってきます。CODEが支援する「女性支援センター」でカーペットづくりなどの技術を得、自立するための力になればと思います。また「車や物は奪われたけれど、私にはまだ命がある。命があれば何かできる。」という女性課題省の方のことに、芯の強さと前向きさを感じました。それは基本的すぎて、今私たちが忘れていないことではないでしょうか。様々な刺激を受けたワークショップでした。感じたことを伝え、意識をもって行動することが私たちにできることではないかと思いました。

また、募金活動の方も現在、1コイン募金を展開しておりますが、「エスコープ大阪」さまからもアフガニスタン支援のためのご寄付を頂きました。ありがとうございました。

これまでの活動記録1/1～3/17

- 2003 1/ 8 CO-OP勉強会開催
- 1/11 ワンワールドフェスティバル出展(～1/12)
- 1/14 教育協力運営管理ワークショップ参加(～1/16)
- 1/14 キャパシティビルディング研修参加(～1/16)
- 1/17 CODE発足1周年
- 1/22 合同部会会議開催
- 1/23 国際ワークショップ実行委員会出席
- 1/25 災害人道医療支援会in関西出席
- 1/30 国際ワークショップ(実行委員会参画～2/1)
- 2/12 JICAとNGOとの連携のあり方研究会出席
- 2/14 スタッフ研修会開催
- 3/ 7 私が描く！地球のくらし方～知って楽しい！ド編～開催
- 3/15 NGOことはじめ2～KOBEO発世界へ～開催
- 3/15 日本の難民受け入れシンポジウム参加
- 3/16 アガサ・チャリティフェスティバル参加
KOBEO国際交流フェア2003にて募金活動

ありがとうございます。会員・寄付者ご芳名

(以下順不同・敬称略)

一般寄付<2003年1月1日～3月17日まで>

村井雅清、山添令子(以上兵庫県)

2003年1月1日～3月17日までの新規会員

- ・正会員：成田直志(兵庫県)
- ・賛助会員：阪井建二(大阪府)、斉藤茂樹、金宣吉(兵庫県)

編集・発行 CODE(海外災害援助市民センター)

〒652-0801 神戸市兵庫区中道通2-1-10

TEL：078-578-7744 FAX：078-576-3693

e-mail info@code-jp.org URL <http://www.code-jp.org/>

郵便振替：00930-0-330579